

## A O M O R I A R E A



●ほちのへし  
八戸市  
被災した港を見渡す高台で防災を学ぶ

●ほちのへしみなとたいけんがくしゅうかん

**港** 町八戸市は青森県で最も被害が大きかったエリア。八戸港を見下ろす高台の館と公園内にある八戸市みなと体験学習館は、地域の歴史・文化と東日本大震災の被害を伝える場として2019年7月にオープンしました。

防災学習フロア(1階)にあるのは、震災当時の状況を感じてくれる「震災タイムトンネル」、発災から復興までの記録をまとめた「津波アーカイブ」、防災グッズの展示など、震災についての学びを通して防災意識を高められる内容となっています。歴史・文化学習フロア(2階)では、八戸の魅力を紹介する「湊ワイドスコープ」、昭和30年代の様子を再現したミニジオラマなどを地域の歴史と文化を感じることが出来ます。

施設と同じ館奥公園内に立つグレットタワーみなと展望室から八戸の港や町並みを見渡してみるのもおすすめです(入館無料)。

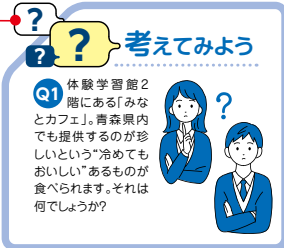
2階「歴史・文化学習フロア」にある「湊ワイドスコープ」。高さ2.6m、幅1.3mの大型スクリーンに、八戸三社大祭や八戸えんぶりなどの伝統行事をはじめ、種差海岸の風景など地域の魅力が映し出される



1階「防災学習フロア」の中央にある「震災タイムトンネル」。正面と左右にモニターが配された通路を歩きながら、東日本大震災の津波が迫ってくる様子などを映像と音響でリアルに体験できる



「震災タイムトンネル」を抜けるところにある「津波アーカイブ」。写真や新聞記事を用い、東日本大震災当時の状況を時系列で展示する。復旧の経緯、被災地に寄せられた支援などについても紹介している

Q&A  
考えてみよう

注目してほしいポイントや自分自身で考えるきっかけを問いかけています。現地で確かめながら答えを見つけましょう。

Q1

体験学習館2階にある「みなとカフェ」。青森県内でも提供するのが珍しいという“冷めてもおいしい”あるものが食べられます。それは何でしょうか？

④ 防災食のメニューが食べられる。カレーや牛丼など非常時の食事を体験することができる。防災グッズの販売もあり。

●ほちのへし  
八戸市

八戸市の被害状況	
最大震度	5強
浸水面積	9km <sup>2</sup>
最大浸水深	11.18m
全壊	254棟
半壊	624棟
一部損壊	851棟
死者	1人
行方不明者	1人
負傷者	71人

※被害状況のデータについては令和4年3月1日現在のもの。●被災状況には、平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の余震による被害(別に被害状況のとりまとめを行っている令和3年2月13日に発生した福島県沖を震源とする地震及び令和3年3月20日に発生した宮城県沖を震源とする地震による被害を除く。)を含むほか、平成23年3月11日以降に発生した余震域外の被害の区別が不可能な地震による被害を含む。●不明箇所については、現時点で調査しているものも含む(空欄または「不明」としているものは、資料記載の通り本誌に掲載)。

展示  
交流地点

施設DATA  
●ほちのへしみなとたいけんがくしゅうかん  
**八戸市みなと体験学習館**  
☎0178-38-0385 MAP P110E4  
①八戸市湊町館奥67-7  
②JR陸奥湊駅から徒歩10分  
③9~19時(7・8月は~21時、7・8月の日曜は6時30分~21時)  
④月曜(祝日の場合は翌日)  
⑤無料  
⑥あり(大型バスあり)

青森

岩手

宮城

福島

市町村の  
被災状況

各市町村ごとの被災データ・住家被害・人的被害をまとめています。

- 被災データ
- 住家被害
- 人的被害

## ジャンル

施設の特徴を4つに分類して紹介しています。

- 展示・交流拠点
- 慰霊碑・公園
- 震災遺構
- その他

## ガイドアイコン

解説員等の配置がある「施設ガイド」、講話・ツアーを行う「語り部」、音声で解説を行う「音声ガイド」、バリアフリーで入場できる「車椅子OK」をそれぞれ示しています。(施設からの回答により掲載)。

- 施設ガイド
- 語り部あり
- 音声ガイド
- 車椅子OK

※各市町村の被害状況のデータについては、以下の資料に準拠しています。

- 最大震度** 「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」による各地の震度、平成24年12月、気象庁
- 浸水面積** 津波による浸水範囲の面積(概略値)について(第5報)、平成23年4月18日、国土地理院
- 最大浸水深** 津波痕跡データベース、東北大学災害科学国際研究所、東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループによる現地調査結果
- 住家被害・人的被害** 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)について(第162報 別紙)、令和4年3月8日(火)14時00分、消防庁災害対策本部

●データは令和4年3月1日現在のもの。●被災状況には、平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の余震による被害(別に被害状況のとりまとめを行っている令和3年2月13日に発生した福島県沖を震源とする地震及び令和3年3月20日に発生した宮城県沖を震源とする地震による被害を除く。)を含むほか、平成23年3月11日以降に発生した余震域外の被害の区別が不可能な地震による被害を含む。●不明箇所については、現時点で調査しているものも含む(空欄または「不明」としているものは、資料記載の通り本誌に掲載)。

●福島県の死者・行方不明者数については、他県の計上方法と異なるため、可能な範囲において重複計上や計上漏れを排除し、一部他県との整合を図り計上し直したものの。よって、消防庁と福島県の公表数に違いがある。



# アクセスMAP

## 主なアクセス

- 青森 八戸**
  - 三陸沿岸道路 (八戸是川IC~宮古北IC) 経由 約2時間(130km)
  - JR八戸線~三陸鉄道宮古駅 約3時間25分
- 岩手 宮古**
  - 三陸沿岸道路 (宮古中央IC~鳴瀬奥松島IC) 経由 約3時間50分(240km)
  - 東北自動車道 (盛岡南IC~泉IC) 経由 約3時間30分(250km)
  - 岩手県北バス(宮古駅前~盛岡駅前)~東北新幹線(盛岡駅~仙台駅) 約3時間10分
- 宮城 仙台**
  - 仙台南部道路~常磐自動車道(長町IC~仙台若林JCT~いわき中央IC) 経由 約2時間20分(160km)
  - JR仙台駅~いわき駅(特急利用) 約2時間10分

※所要時間はおよその目安で、列車や道路状況により異なります。

## 復興道路 & 復興支援道路で行こう!

震災から約10年後、東北の沿岸エリアをつなぐ全長約570kmの復興道路・復興支援道路が全線開通しました。沿岸部へのアクセスが劇的に変化しただけではなく、なんと通行は一部区間をのぞき無料!(仙台港北IC~鳴瀬奥松島IC間は有料)沿岸部をめぐる際はぜひ利用しましょう。

- 「復興道路(三陸沿岸道路)」は、八戸・久慈自動車道、三陸北縦貫道路、三陸縦貫自動車道の総称
- 「復興支援道路」は、宮古盛岡横断道路、東北横断自動車道釜石秋田線、みやぎ県北高速幹線道路、東北中央自動車道(相馬福島道路)の総称

より早く、より近くなった沿岸部へ



# 東日本大震災

# 震災伝承施設 (被災地を訪れ、学びにつなげよう)

# はやわかりガイド

2011年3月11日に発生した東日本大震災により、太平洋沿岸地域は甚大な被害を受けました。震災の教訓を伝え、未来の命を守るため、東北各地の震災伝承施設や慰霊・追悼の場を巡って、学ぶ旅に出かけてみませんか?



**展示や遺構など多角的に学べる**  
「震災伝承施設」といってもタイプはさまざま。パネル展示や映像をまとめた資料館や、被災した建物をそのまま保存し公開する震災遺構、犠牲者を追悼する慰霊碑などがあります。また各施設や地域によって扱うテーマも違うので、いろいろな角度から学ぶことができます。



## プランニングのコツ

### 道の駅や観光施設も一緒にまわって地域を知ろう

震災伝承施設の周辺には、新しく道の駅が整備されたり、観光商業施設がオープンした場所もあります。地域の特産物を味わい、地域の人々と交流し、地域を知ること大切です。震災伝承施設だけではなく、積極的に地域観光も楽しみましょう。

- 各県の観光情報はコチラ**
- 青森県はやわかりガイド → P.20
  - 岩手県はやわかりガイド → P.50
  - 宮城県はやわかりガイド → P.88
  - 福島県はやわかりガイド → P.108

## 「3.11伝承ロード」として訪れやすい工夫も



点で存在している震災伝承施設を「3.11伝承ロード」としてネットワーク化。青森・岩手・宮城・福島の各県ごとにまとめられたリーフレットでは、イラストマップとともに施設が一覧化され、目的や時間に応じて効率的に施設同士を訪れやすいように紹介されています。

▶3.11伝承ロード推進機構HP  
<https://www.311densho.or.jp/>



## 震災伝承施設とは?



### 語り部などから直接お話を聞くことも

震災伝承施設として登録されている多くは、施設ガイドや語り部プログラムを提供し、来訪者の理解をより助けてくれます。公共交通や車でアクセスでき、大型バスの受け入れが可能な施設も多く、教育旅行にも活用されています。

### このページもCHECK

- 岩手県・釜石「うのすまい・トモス」→ P.6
- 宮城県・南三陸「南三陸町東日本大震災伝承館 南三陸311メモリアル」→ P.8
- 福島県・富岡「ふたばいんふお」→ P.10

### 宿泊施設は少なめ。事前予約がマスト

東北の被災地域は震災以前から宿泊施設が少ないエリアでしたが、震災の影響などで閉鎖された施設もあります。事前に宿を予約するのが安心です。また万が一の場合を想定し、宿泊先に到着したら避難ルートを確認するようにしましょう。

### アクセスは車がベター。公共交通は本数に注意

東北の被災沿岸部は公共交通で訪れることも可能ですが、比較的本数は少なめ。時間に制約なく、自由にまわりたいなら車がオススメです。多くの施設では駐車場が整備されています。比較的大きい街であれば、新幹線から乗り継いで電車やバスで行くのも便利です。

### しっかりまわるなら1日3~4カ所

施設の大半は太平洋沿岸部にあり、なかには徒歩圏内の距離に施設が集まっているエリアも。展示施設や震災遺構、慰霊・追悼の場などさまざまな施設を巡ることで、多角的に震災を学ぶことができます。マップなどを参考にしながら訪れる施設を選びましょう。